

保中タイムズ

横浜市立保土ヶ谷中学校
編集長 大木 空
副編集長 若原 孝明
記者 藤山 福井 小森
下瀬 久保田
高岡 入澤

「現地見学」第二弾!

～海と日本プロジェクトin晴海～に参加してきました! “海の日に行く晴海埠頭”



商船三井の自動車運搬船「EMERALD ACE」をバックに記念撮影

私たち保土ヶ谷中学校新聞部は、七月十七日「海の日」に晴海埠頭で行われた「海と日本プロジェクトin晴海」に参加し、晴海埠頭ターミナルを見学しました。
私たちは上原川駅に集合し、電車で揺られて東京駅までの約四十分、そこからバスに乗って晴海埠頭に移動しました。
その日は「海の日」の特別イベントがあり、たくさんの方が埠頭に集まっています。乗船体験ができました。
「東光丸」入澤・若原チームは「エニクス」、しんかい6500、大木・小森チームは「Spirit of Yokohama」、高岡・福井・藤山チームは「日本丸」を、それぞれ見学しました。

現地を知る! 埠頭と私たちの関わり

最後に商船三井の船の前で記念写真を取り、その後横浜駅まで全員で移動して解散となりました。
今回の見学は、現地で動いている皆さんの船の内

商船三井の船で知る日本の海運

皆さんは、日本の輸出入する物の約9割、約99.6%が海で運ばれているというのをご存知ですか。私たちの生活に必要な穀物、衣料品、そして原油などのエネルギーはほとんどが外国から船で運ばれているのです。
そんな私たちの生活を支えている船の一つ、商船三井の自動車運搬船「EMERALD ACE」を見学してきました。

最初に見学した船内に車を入れる作業では、左右の車間が十センチ前後の車間が三センチになるように車を停めます。
このように車を入れるスペースが狭いので、パワーアシストやブレーキアシストなど、全ての車間を停めることが、約五千五百台も積むことができます。
車同士がぶつからないように慎重に車を停める様子は、まさに職人技でした。



コンピネーション技師の駐車作業



海と東京のビル群を見渡して

部を見られるなど充実した一日となりました。
島国である日本は、物や人の行き来が多くを船での移動に頼っています。
その船の行き来で大事な役割を果たす埠頭を見学することで、そこで働く人達の努力や仕事にかける意気込みを知ることで、とても良い体験ができました。(大木)

船上で働く女性たち

私たちの女性船員さんの話を聞くイベントに参加し、船上で活躍している機関士の木村幸江さん、二等航海士の牧野三郎子さんが話をしてくれました。
私たちは特に印象に残った話を「船に上った理由」です。
木村さんは、父の田舎に行くときに毎朝船に乗っていたことから「船への憧れ」を保持することができたそうです。
牧野さんは、昔から海が好きだったのがきっかけだと答えてくれました。
小さいころの思い出が仕事に繋がっているようです。私たちは質問タイムの時に「苦労したこと」が、

船員の仕事の魅力は、我々さんの場合、船を操縦した達成感を味わえること、誰では見られない景色が見られることなど答えてくれました。
また、結婚についての話では、船員同士の結婚は



日本を支える女性船員

「話が合うからいい」と答える一方、「仕事上結婚相手と会えないこともあるから寂しい」とも答えてくれました。
今回、女性船員さんの話を聞き二人が海の仕事に対して、誇りを持って働いていると感じました。
将来、職業を学ぶ時に参考にしたいです。(福井 藤山)

裏から船を支える技術者、機関士

私は、船が多めの人たちがよって文をえられ、そうして私たちの生活に役立つ物資を運んでくれていたのだと思っていました。
皆さんも、目の前には船長さんや甲板部などの統括者である一等航海士、海図などを担当する二等航海士、汽笛やレーダーなどを担当する三等航海士などの多くの船員さんが自分の仕事についての話をしてくれました。
その機材を見学した後、船長室を見学しました。船長室は二つあり、船員の部屋よりも広くとても豪華でした。
最後に、船の機関士の仕事について教えてもらいました。

私たちは、商船三井の機関士さんの話を聞きました。プロシキターを使ってタイズを出してくれたり、面白いシフト形式で話をしてくれましたので、とても楽しく機関士のことを学ぶことができました。
私は話を聞いて、機関士は仕事がとても多く、大変な役割だと思いました。
機関士はエンジンルームの仕事はもちろん、海水

でも楽しく機関士のことを学ぶことができました。私は話を聞いて、機関士は仕事がとても多く、大変な役割だと思いました。
機関士はエンジンルームの仕事はもちろん、海水

船の心臓、操舵室

晴海埠頭のイベントには私たちは全員で参加しました。広い晴海埠頭の会場の中央にスタンプがあり、全て集めるという言葉が完成させることができます。
このように車を入れるスペースが狭いので、パワーアシストやブレーキアシストなど、全ての車間を停めることが、約五千五百台も積むことができます。
車同士がぶつからないように慎重に車を停める様子は、まさに職人技でした。

四人ははずれてしまいました。なんと、入澤さんが四等客を当て、文具とシルセットをもらえました。
また、参加賞は測量船「海洋」のペーパークラフトで、少し組み立てるのが難しかったのですが、楽しく作ることができました。(久保田 入澤)

商船三井の自動車運搬船「EMERALD ACE」の操舵室を見学した私たちは、以前に取材した客船「水川丸」の操舵室とかなり違っている事に気づきました。「水川丸」は手動の機材が多かったのですが、「EMERALD ACE」は自動化されたレーダーや固定式のマウスなど、固定式のマウスなどで操作していました。
レーダーは近くの船の位置を確認していて、船同士がぶつからないように注意し、海図は自分の船の位置を確認していました。

このような工夫をすることで安全に航行できるようにしているのを知りました。たくさんの方の皆さんの話を聞いて、船を動かすには多くの人が関わって、お互いが協力し合っているのことが分かりました。(小森 高岡)



お揃いの帽子でパシャリ

「現地見学」第三弾!

中学生取材記者講習会に参加しました 選抜メンバーが行く東京・川崎



他の部員のために取材頑張ります!

私たち新聞部選抜メンバーの大本、若原、藤山は、七月二十一日に横浜市が主催する中学生取材記者講習会に参加してきました。

私たちが最初に見学した「TOKYOミニナトリエ」は、国際貿易港として関東を支える東京湾と臨海副都心の過去と現在、未来を紹介するために設置されたものです。タナパノルや音声を使った解説、壁に貼ってある時系列順の東京の歴史紹介など、分かりやすく面白い展示で東京湾や副都心のことを学ぶことができました。次には、首都圏臨海防災センターです。



アットの中には長巻の備えが

三つのデッキで知る 東京港の今昔

TOKYOミニナトリエでは、東京港が東日本の経済や生活との関わりや、江戸時代から現在までの東京湾・港の四百年の歩みを知ることができま。

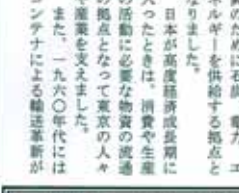
この施設は、三つのデッキに分かれています。江戸デッキでは、昔の江戸の河岸の様子やシオラマが再現されていて、昔の江戸の様子がよく分かります。また、江戸から現在までの埋め立ての様子が分かる。もあり、施設の老朽化やコンテナヤードが狭く、トレーラの安全走行へ支障があるという問題点があるそうです。ちなみにこの埋め立てから見ると、ほとんどの埋め立てでも知られていない。(久保田 小森)

品川コンテナ埠頭

一九六七年に完成した品川コンテナ埠頭は東京湾のコンテナ埠頭のひとつで、日本初のコンテナ埠頭です。最初は東京都が管理し、その後、品川コンテナ埠頭株式会社(株)が管理・運営を行うことになりました。延長が七百四十五mの埠頭には、韓国鉄道が通るに十一便、中国鉄道が通るに四便、東南アジア航路が通るに二便が就航して、



夜景が美しい品川コンテナ埠頭



施設内からコンテナを眺めて

江戸の濠と東京港

TOKYOミニナトリエの見学で東京港に興味を持った私たちが、東京港の歴史(「埠頭」について調べてみました)。

江戸時代は江戸と呼ばれ、一五九〇年頃現在の目黒川が広がっていました。江戸の濠は、全国各地から物資が集まる日本の物流の拠点でした。江戸時代の日本には二つの航路があり、距離は長い「みなとづくりルート」が比較的安全な「西回り航路」、距離は短い「東回り航路」があり、東回り航路が多かった。その二つの航路を使って、全国各地から米、木炭、酒、油などの物資が江戸の港に集まりました。そして江戸に集まった物資は、運河を使って各所に運ばれていました。大田市・江戸は濠と水運によって発展した「水の都」だったのでした。



東京港の貨物取扱量の割合

東京の港

東京港は戦後、日本の復興のために石油、電力、エネルギーを供給する拠点となりました。日本が高度経済成長期に入ったのは、消費や生産の活動に必要な物資の流通の拠点となって東京の人々や産業を支えました。また、一九六〇年代にはコンテナによる輸送革新が

大井コンテナ埠頭

大井コンテナ埠頭はコンテナターミナルでの貨物取扱量が日本一を誇ります。東京港全体の外貨コンテナ貨物取扱量の約五十一%、つまり半分以上は大井コンテナ埠頭が占めています。日本の貿易にこの大井コンテナ埠頭は欠かせない存在だと誇れるでしょう。大井コンテナ埠頭は、限られた土地を、より効率的に使うための工夫を行っています。その一つが「立体式格納

青海コンテナ埠頭

青海コンテナ埠頭は略名で青海CTと呼ばれています。この埠頭は一九八五年より順次供用の新しいコンテナターミナルがつくられ、二〇〇一年に完成しました。延長は千五百七十mで、そのうち七百mは専用埠頭、八百七十mは公共埠頭とされています。公共埠頭とは、地方自治体の港湾管理者が建設し、維持と管理をしている埠頭のことを言います。

東京湾の港

東京湾には東京港をはじめ、川崎港、横浜港、横須賀港、千葉港、木更津港の六つの大きな港があります。そこで、東京湾以外の港の特徴も調べてみました。川崎港は埋め立てによってできた港で、川崎市が管理する埠頭と企業が所有する埠頭から成っています。

「庫」です。立体式格納庫を購入したことで、土地の利用率が六十七%、荷役効率が三十三%増加しました。荷役効率が上がった理由は、荷役作業が自動化されたことにある。今までの方法だと、積み重ねるコンテナを取り出す場合は、上に積み重ねるコンテナを移動させる必要があります。しかし、立体式格納庫だと横状なので積み重ねる場所に関わらず、すぐに取り出すことができます。この格納庫は環境に対して配慮されています。電



効率とエコを両立



ガントリークレーンとコンテナ船



東京湾の相地図

編集後記

今回は海運と港について特集しました。私たちの新聞を通して、興味をもってくれたら嬉しいです。次号は九月二十九日に発行予定です。(大本)